



## 文章題が苦手で…

様々な感動の場面を記憶に刻んで冬季オリンピックが終了しました。そして入試シーズンも終了、当塾では3月4日から新年度がスタートします。新学年でもみなさんのやる気をとことん応援します。

さて、面談や入塾面接の時の保護者の方の決まり文句が「うちの子は文章題が苦手です…」というものです。でもその一言で終わっては苦手を克服することはできません。もう一步踏み込んで、その症状と原因を探ってみなければなりません。その上で本人が努力すべきこと、保護者や塾がサポートできることを具体的に考えるべきです。まず小学校高学年から中学1・2年生までなら、「本当にその算数や数学の問題文を読んで質問されている内容を理解しているのか？」が最初のポイントです。塾での実例として、教えるのではなく一緒に問題文をゆっくり音読してあげるだけで「ああ、わかった。それなら式を立てられる。」という生徒がいます。小学校低学年では文章の中にある数字だけに注目してその計算だけで答えが出ることが多いので、学年が上がってもそのやりかたのまま乗り切ろうとして苦手になっていくのです。次に確認すべきことは「本当に正確な四則演算が身につけているのか？」ということです。せっかく題意を理解し式を立てられても途中の計算過程で間違えてしまうと結局は×をつけられるので、そこでイヤになってしまうのです。さらに文章題は紙面上のスペースを取るのだから問題集では計算問題の4分の1程度の問題数しかありません。これでは問題パターンの練習すらできないのです。苦手になりかける前に意識して似たタイプの問題を複数解いてみましょう。「〇〇あたり」などの基本的用語の意味をしっかりと理解することも重要です。さらに中3になってからは「出題者の意図をくみ取る」練習も必要です。どういう方法で解かせようとしてこの問題を作ったのかが見えてくればもう大丈夫。入試問題も決して怖くはありません。

その学年で習った計算に限定して親子や友達どうして文章題の出し合いをするのも楽しい学習法。相手をうならせる問題で勝負！